

有床義歯にナノジルコニアを用いた臨床例と考察

播州支部 フィデス・デンタル 名倉 努

2005 年歯科用ジルコニアが認可を得て以来、CAD/CAM 需要は増え続け、大規模な技工所だけではなく、少人数の技工所でも見かける様になった。

ジルコニア加工が始まった頃のスキャナーや加工機は歯科技工士の作りだす補綴には到底及ばなかった事を憶えているが、現在では、格段に精度が向上し、ブリッジやコーピングといった歯冠修復だけではなく、有床義歯においてバーやクラスプ、ジルコニア床などの加工が可能になり、補綴製作において CAD/CAM は歯科技工士にとって、無くてはならないパートナーとしての存在になりつつあると言える。

今回、臨床現場で多く使用されている Y 系ジルコニアより、数倍の破壊靱性値を持つ Ce 系ジルコニアであるナノジルコニアを用いて、メタルレスデンチャーを製作したので、コバルトクロム床義歯との比較や生体親和性に関する優位性、また技工操作などを交えて報告したいと思う。